

どについて長崎県やJA等の関係機関と協議を進めている。今後は暖房機の活用や気象災害に備えた共済加入の推進を図り、災害リスク管理に対するピワ生産者の意識向上の啓発に努めたい。

野母崎地区の地域振興策

問 恐竜博物館建設により、野母崎田の子地区の全体像はどうなるのか。また、亜熱帯植物園閉園に伴う長崎県からの支援について協議状況を伺いたい。

答 恐竜博物館については、現在、基本構想の策定に取り組んでおり、また、亜熱帯植物園の保有植物については恐竜博物館との相乗効果を考え、田の子地区へ移植する活用策を取りまとめた。現時点において、恐竜博物館建設が最も大きな野母崎地区の振興策と考えており、恐竜博物館を核とした地域に潤いをもたらす持続可能なまちづくりについて、地域の方々と引き続き検討していきたい。

また、亜熱帯植物園閉園に伴う長崎県からの支援については、県市で勉強会を開催するとともに、県に対し財政支援についての要望も行っており、今後とも、財政支援の枠組みなどについて協議を重ねていきたい。

小島養生所跡の完全保存と学校建設

問 小島養生所の価値を見出せないま

ま、遺跡の上に学校建設を進めることは問題があるのではないか。

答 小島養生所が歴史上果たした役割は大きいものと考えている。体育館側の遺構については全て現状保存し、埋蔵文化財の最適な保存方法とされる埋め戻しを基本に、一部、露出展示や移設を行いながら保存・活用を図ることとしており、各団体の意見も参考としながら、長崎大学と展示に係る具体的な協議を進めている。

一方、学校建設については、地元住民との協議の末に決定した経緯があることや校舎の老朽化が進んでいることから、佐古小学校敷地に新校舎を建設することとしている。

長崎市としては、遺跡の保存も学校建設も重要な責務として捉え、それぞれ最大限の成果を求めて両立を目指すこととしている。

公明党

子どもの貧困対策

問 子どもの貧困の現状と課題、また課題解決への取り組み方針を伺いたい。

答 長崎市の17歳以下の子どもの生活保護受給率は、平成29年10月現在で約3パーセント、生活保護に準じる程度に困窮している準要保護世帯の認定を受けた児童生徒数は平成28年度で全児

童生徒の約20パーセントとなっている。子どもの貧困問題は、経済的困窮を背景に生活や教育面など多面的・複合的問題を含むことから、対策に当たってはさまざまな施策分野を総合的に推進する必要がある、社会全体で取り組むべき課題である。

貧困の連鎖を断ち切るには、貧困のリスクが高い子どもや家庭を早期に把握し、必要な支援へつなげることが重要であるため、今後とも関係行政機関や地域の民間団体と連携・協力しながら効果的な支援の充実を図りたい。

「サンゴ礁の島」高島

問 高島海水浴場は天然のサンゴやクマノミなどを間近で観察できることが魅力の一つだが、サンゴ等の価値をどのように認識しているのか。また、民間企業からの支援を受け、地元のツーリズム団体がサンゴの保全と再生技術の実証実験を検討しているが、この取り組みに対してどのように考えているのか。

答 サンゴ礁は高島の地域資源の一つであり、交流人口の拡大に資するもので、保全の必要があると認識しており、海水浴場内にサンゴの生息区域などを示した看板を設置し、利用者等への注意喚起を行うなど、場内のサンゴ保全に取り組んでいる。

また、地元のツーリズム団体が企業

の支援を受けてサンゴの再生実験を行う意向があることは聞き及んでおり、意義のあるものと認識している。サンゴの保全・再生においては漁業への影響や利用者の安全面等に配慮し、地元関係団体とも協議しながら取り組みを支援していきたい。

創生自民

周辺部地域の公共交通の維持・確保

問 人口減少、少子高齢化が進む周辺部の交通手段の維持・確保の取り組みを伺いたい。

答 周辺部等のバス網が行き渡っていないところや路線バスの採算性などの問題から、事業者による運行が難しい地域においては、コミュニティバスや乗り合いタクシー等を運行しているが、利用者は減少傾向にあり、運行に伴う財政負担も年々増加している。

周辺部における日常の交通手段の確保は重要な課題であると認識しているため、暮らしに必要な施設が集中する地点と生活の中心となっている地点を公共交通でしっかりとつなぐことで、地域住民の利用を促しながら、一方で、交通事業者と連携し、効率的な運行となるよう見直しを行いながら、公共交通の維持・確保に努めていきたい。